



月刊

一號

○ 英政畧記	○ 政体畧論	○ 弱一覽	○ 通盟諸邦強	目錄
--------	--------	-------	---------	----

西垣文庫  
文庫 10  
7384  
1



持 文庫10  
7384  
1

戊辰九月

官版

明治月刊

大政府



緒言  
 泰西の學天文窮理より器械物産の各科小至る  
 出以て世人に視聽を恢弘しするを此多し然  
 とも限ある此力を以て窮てあき此事を網羅せ  
 んと欲する時を假令い硯水海の如く筆管  
 後とあけ小至ると雖とも收載の勞誠し其煩  
 堪ざるを此何り故に資を譯書し取て津と問人  
 と欲する者常に遺珠の恨を抱て猶其鮮と嘆  
 す此に於て今者博く新説異聞の裨益あるを此

明治月刊者言

と採拾し之と梓より然れども願を隣家の  
澹羨より承りて自家此賦肉を遺る亦敢くせしむる  
所ありきバ

皇國の事より於て人の知見を廣むる小足るも此  
を其間小附し嗜好者の便より其ふ

戊辰九月

通盟諸邦強弱一覽

○合衆國 一名花旗國又聯邦原名  
ユナイテッド・ステイツ

大統領 アンドリユー・ジョンソン 慶應元乙丑年即位

年齢未詳

政体 共和政治

陸軍 常備兵七萬五千三百八十人

戦時二百萬餘

海軍 戦艦二百六十一隻

大砲二千二百十八門

人口 三十一兆 每方里平均十人

海軍の多寡と算はる時も魯西亞佛蘭西此  
兩國は次くと雖も技藝の練熟に至りて  
之より超へて獨り英國は及もざるのみか  
り商船よく航海營業する者も亦英國を除  
く此外ハ他國の及ぶ處ふあはれ

○和蘭國一名荷蘭原名ホルラント  
或子ドランダ

王國 當主ウ井ルリヤムー三世嘉永二己

酉年即位 當辰五十一歳

政体 立君定律

陸軍 士官千九百九十一人

兵卒五万九千三百二十七人

海軍 戦艦百三十四隻 大砲千六百七十門

民口 三兆五十五萬二千六百六十五

每方里平均二百六十人

外

属地は民口 二十兆二十八萬〇八百

五十八人

雜誌

國の大小小準よく富強を論ずれば方今歐  
羅巴洲中よく英國と第一と為し荷蘭是ふ

亜く但し製造品の如きと素より英國小比  
較はつきり非なきとも船匠ハ古昔より有  
名なるの故小却る此國は注文を為し戦艦  
商船を打建諸國多し

國內の地平海水よりを低し故に長堤を築  
き之を障へ時々其決壊を防く為め小工  
夫と費はあつ然もとも内地を守り小  
も却て便あり事あり苦し外寇小遇ふ時  
ハ無数の閘門を開き海水を澆入るる因  
り城外悉く滙流と為り敵兵を沈没する

小足きり

○英吉利國 英蘭土、蘇格蘭土、意而蘭土の三洲  
相合し、ユナイテッド・キングダムと成る

一名大不列顛 原名インギランド  
或ゲレートブリテン

王國 女王ウ井クトリヤ 天保九戊戌年即

位 當辰四十九歳

政体 立君定律

海軍 戦艦四百七十四隻

陸軍 士官一萬七百七十四人

下等士官一万五千八百十三人

兵卒十七万三千八百七十九人

馬一萬二千八百五十四疋  
 二十九兆七十万九千三百三  
 每方里平均二百八人

内

英蘭土 二十兆二十五万  
 每方里平均三百四十四人  
 蘇格蘭土 三兆 每方里平均一百人  
 意而蘭上 六兆 同 百八十人  
 本國及諸洲の屬地を合し、凡七兆と五  
 十方方里、地球の七分一と領し、民

口を総計二百兆、天下の人種四分一  
 を管轄し、版圖の廣大ハ魯西亞、齊、人  
 烟の稠密も漢土、亞くと謂ふべし

雜誌

凡世界中の海港、此國の商船至る、さうと  
 せざる、故に航海、有無と通ずる、不至  
 り、各國中、於て最を第一あり、且其質  
 易の繁昌、富強と存し、所以ハ唯人民、此  
 敏捷、小して生業、勉力す、耳、何、以、蓋  
 志、技藝、達し、製造、小長、奇功、此物、便利

の品ハ多く此土此所作小出ク他國の者之  
茂仰ひ々其用ニ供一就中國土此位置小至  
りクハ實小天然の恰好ヲ得る小因ク然ク  
志むる所以のト此あり先第一小島國小  
一々海濱凹凸ナリ小因リ港數多く一々舟  
楫此便利よく内地の産物ヲ運輸す小其  
勞費少一第二小國土此位置五大洲の中  
央小在リク諸國ニ航海す小甚一其迂程  
あク第三小も歲中の氣候中和の宜きを得  
テ夏日も工作を廢する程此酷暑小冬

天ノ中亦海水氷結スル此患ナリ第四小ハ政  
治善ク行届キ商賣此あト小於クハ人民の  
窮厄小至るべき法律あり故ナリ

○魯西亞國 一名俄羅斯  
原名ルシヤ

帝國 當主アレキサンドル第二世

安政二乙卯年即位

政体 君主擅制

君主を察兒ト稱シ皇帝の義あり又  
國中ノ人民此名代人トシテ政小預ル  
事小各郡小於ク貴族此者三年小

一度集會とあり政と議する所り但  
一其貴族ハ其一郡の事を論する耳  
又あつて一体の大政を議定する所と  
能はる

民口 七十七兆千四百四十八人

每方里平均三十三人

陸軍 七十九万八千百五十一人

官兵此みといふ此外克薩容の如き  
騎兵并民兵農兵等影

海軍 戦艦二百六十三隻

大砲二千九十五門

外

鉄装艦二十四隻 大砲百三十門

○佛蘭西國 一名法郎西  
原名フランス

帝國 ロイス・ナポレオン三世

嘉永六癸丑年即位 當辰六十一歳

政体 君主擅制

一体の名義ハ君臣同權より上下  
此兩議院を設立すれとを内外の政  
事皆帝の獨裁小出く議政官々拱手



一々其員に充る此みあり故小有き  
とも無さう如し

民口

三十八兆十九万二千九十四人  
每方里平均百八十三人

外

屬地の民口 二兆九十九万九千百二

十四

總計四十一兆十九万二千二百十八人

陸軍

百二十万餘

陸軍ハ天下に冠絶に英國の如きも其勇壯

ハ拮抗し能ふと雖も兵數小於くと斯の  
如く衆多なる小至らば殊に五大洲中此屬  
地に分成はる故小兵士支分一々此國の如  
く一致練熟せし魯西亞塊斯大利亞ハ其兵  
數此國小超過すと雖も勇壯遙小劣りて  
規律整ハ之を司令する將官も亦此國の  
如き技藝學術兼備此者と得ず

海軍

戰艦九十九隻 大砲七千七百七十五門

員數ハ天下小冠あり技藝小至るを英國  
小及ハ才政羅巴洲中小於て第二等小屬に

○葡萄牙國

王國

當主ペトロ一第五世

嘉永六癸丑年即位 當辰三十一歲

政体

立君定律

國會とコルテスと稱す 上局ハ貴族  
下局ハ民此名代人として設立す

民口

四兆餘 属地を論せず

每方里平均百五人

陸軍

常備士官千五百十二人

兵卒三万百三十人

戰時士官二千四百八人

海軍

戰艦四十七隻

雜誌

歐羅巴洲中此文明と稱す 諸邦小於るハ  
此國を以て人心鄙劣の極と為し 家屋身持  
共し不潔あり

西班牙人との隣國小居る風習も同し 然し  
其間柄甚多不和し 互に仇讐の思と為  
す

西班牙人曰く西人の徳と去る時ハ一個の

葡人として葡人答く曰く葡人の奸詐を加ふる時ハ西人と成す互に相悪たれど此れ如し

○李漏生國一名普魯士原名ブルシヤ

王國 フレデリックウヰルリヤム第四世

天保十一庚子年即位 當辰七十一歳

政体 立君定律

各郡人民此各代人集りて郡中の政と議ふ都府ハ上下の二局ありとも權柄多くて王室あり

民口 凡五十兆 每方里平均百五十七人

陸軍 平時士官兵卒三十一万九千二百八十六人

戰時士官兵卒九十七万二千四百三十四人

一種民兵ありて防國軍と稱し國中の男子二十歳より二十三歳迄を必らば此隊中小編入し三年毎に兵卒と為る制度あり歳満ちて隊を出る者并編入す者毎年各六万餘あり

海軍

戰艦八十七隻 大砲五百四十九門

古來ハ海軍を起すべき港頭と得たり獨逸の大捷ふより土地と得る大小海軍と開き船数日小増加し其勢遠くさざり間小佛魯と凌轅するふ至るべし

○瑞西國

原名スウヰツルラント

合衆國

大統領フルメール

政体

共和政治

民口

二兆五十一万餘

陸軍

每方里平均百六十五人 常備兵あり

戦争の時ハ拳國純人皆兵士とありく他國へ出張し或も自國の守兵と為る其数凡三十四万人あり

○白耳義國

原名ベルヂユム

王國

當主レパルド第二世 即位年未詳

當辰三十七歳

政体

君臣同權

上局も諸部官下局ハ民の名代人小

て設立

民口

五兆 每方里平均三百七十人

人烟稠密ニシテチカウミツ 鶏犬ケイケンの相聞アヒ

と此國と以て歐羅巴洲中第一を為す

陸軍

九万

海軍

微弱ヒヨク

○伊太利國一名撒丁原名イタリー

或サルデーニヤ

王國

當主エマン第二世

嘉永二己酉年即位 當辰四十八歳

政体

立君定律

上院ハ王族并大臣にて王命を受け

一世の間政官と為る下院ハ民の名

代人あり

民口

二十兆 每方里平均二百十六人

陸軍

四十九万四千八百

海軍

盛大戦艦百四隻

大砲千三百二十一門

雜誌

國中不乞食ニシキ多く殊ニシ不盜賊ツク盛シるル甚シ

たゞ至りても黨を結ひ官兵小抗はるるあり

此國不<sup>レ</sup>時刻<sup>ニ</sup>量<sup>ル</sup>事西洋他諸邦不<sup>レ</sup>異形  
きり日没の後第半時と以て日初と為志次第  
不<sup>レ</sup>推て日暮第二十四時不<sup>レ</sup>至るなり

○丁抹國 一名大咀原名

王國 當主フレデリッキ第七世

嘉永戊巳年即位 當辰六十歳

政体 立君定律

民口 一兆五十万 但一屬地と論せず

每里方平均百五十人

陸軍 上官千三百三十人

下官二千八百七十五人

兵卒四万四千七百五十人

此外國中此男子二十二歳以上ハ悉く兵籍不  
編入し八年の間々一月小數度調練と形と  
し戦争此時ハ之を以て守兵とあり

海軍 戦艦三十五隻 大砲三百八十七門

○西班牙國 一名伊斯把尼亞或大呂宋

王國 女主アイサヘルラー第二世

政体

天保四癸巳年即位 當辰三十八歳

立君定律

議院とコルレスト云ひ二局小分つ

上局ハ王より命しある議政官あり

下局ハ民比名代人あり

民口

十六兆 每方里平均八十八人

外

属地 四兆七十二万八千六百三十三人

陸軍

士官九千二百三人

兵卒二十二万七千九十八人

海軍

戦艦五十四隻 大砲百二門

雜誌

民俗游惰小く生業と勤勉人々暗殺す  
 る此風盛ぬを殊小盜賊公行して國を騒  
 民を害はるふ因り時としてを政府も之と  
 制する能ざるも有り  
 國中一般小鬪牛を愛し之を為免小人身と  
 損はるを厭ひせセルウ井ル小鬪牛の学  
 校あり之を操練に實小殘忍の習ふ  
 狂國と云べし

夏ハ熱甚しく日中二時の間工業と休す

政体畧論

一方今宇内の万邦小於く野蠻を除く此外政体  
 三種有り天下ハ天下此天下あるの意を基と  
 一人望の属する者を推く酋長と為し國民集  
 會し政を為し者は共和政治と云國中の  
 縉紳相集り共小事を議する者はと貴族合  
 議と云萬機一人此心小決し生殺與奪の權  
 其手小在る者はと君主獨裁と云其他ハ其國  
 の古習に泥み或る民俗の好悪に依り同異阿

と雖も源は溯りて本と尋る時此三種は  
 出るを此形志然きとも今此三種を論じらば  
 共和政治を用法の權國民の手は在ると以て  
 公論良法恂は他の二者は超絶は雖も虫々  
 ある細民の國事は參與するが故不見識足ら  
 ず一法を行ふに弱し然きとも人心は公道  
 を目的と定めて天理を原くの故は報國の志  
 自ら篤厚あり貴族合議を廟堂小らるるは皆  
 縉紳小く古今小通し事態は諳練はるるが故  
 小國民は敬服はるるを亦他の二者に及ばざ



る處有り然きとも報國此志ハ共和政治より  
薄く〜用法の權ハ君主獨裁より弱し君主  
獨裁ハ立法行法の兩權を一身ニ終へ政憲の  
大綱を其手ニ提るの故ニ三種の中小於く最  
も強盛あると此〜然きとも或る法と假り  
〜己の愛憎を快く世人ヲ為め生殺と恣ら  
て民と靡爛はる小至る憂有り概する小此三  
者も互に一善有きも亦一つ此不善有り法  
を立く律と定るハ共和政治を以て善と爲  
とも其立定の術と設くる小至る〜貴族合

議小如る〜又發して國內ニ号令はる小  
君主獨裁ニ過くるを此かく其得失此の如く  
相半はる故ニ此三者を斟酌〜長を取り  
短と捨て其宜き小適はるを此代最上を爲す  
〜きも今其兼用〜弊なきを此を唯英  
國の政体を然り〜抑英國此政体ハ血統の  
君主有りて法令を執行はるの權を持する  
と獨裁小異なるらと好く又國政と議定はる  
おる三局有りて互ニ相鉗制をら〜其勢鼎  
足此對峙するの如く一致協和はる小あらさ

此も敢て事を決するにあり即ち其三局ハ王  
 室君主及輔相及有りて獨裁と象に上院紳士ありて  
 貴族合議と象に下院農商有りて共和と象に三  
 局各其特權と有す輔相を任し百官を黜陟  
 弊と他邦と交へ和を講し戰と宣べ議院を開  
 閉するは王室の特權あり然まとも若号令其  
 當と得ざるをこれられも必に兩議院より之と  
 抑制し訟獄を聽斷し其罪を決するは上院  
 の特權あり國中租税を司り其允許を得ざる  
 賦役をエキし増減せざる是も下院此特

權あり此も王室より軍を出さんと欲はれ  
 とも若し二院に於て異論と立る時を上院に  
 て是非と糾して輔相と黜け下院にて國帑を  
 鎖し軍需を給せざる故に一局の議小於  
 政に害ありを此ハ他局之と拒み其弊を  
 防く不足る事譬へ精巧ある機關の一部損  
 壞と致は時を全く皆調和を失ふ不至る如  
 く政治の排布實に絶妙あるを此と謂ふべし  
 且此三局に於て唯其一局を設け他の二局を  
 置ざる時を其勢偏重し政体の準と得ざ

るちや素より論と待とせられとも今若ふ一局  
を増し王室と上院と此二局と設り下院と  
置る時ハ法と行ふ不於く障碍形しと雖も  
民會あり故に上下の情通せしめて壅塞の  
患と免るるあや能く又王室と下院とを置  
と雖も上院と遺す時を識者お乏しく去く遠  
慮深謀を形し是非を糾はる者あり或る上下の  
兩院を設くれとも立法此權と持し王室の  
之を可否するふりしは君臣此別ありと  
る名分湮滅し号令一より自ら委靡はるる不至る

ゆへ故に三局此平を持はるるを恰も權衡此如  
く積年の實驗を経て今日の盛ふ至るを其由  
來得く知るべからば實は人力此及ぶ所ふあ  
らば天理に任はるるにや云ふべし是英國の  
能く富強を致して万国に超出はる所以ある  
歟

英政畧記

一英國の政權ハ國王と公會パルリメントと小在り國王を  
政府の主あり故に最も大なる威權を掌握  
し其位ハ代々父より子に傳はる制度あり

國王薨<sup>コウ</sup>時ハ長子あるを此其位茂嗣<sup>コウ</sup>と雖も若<sup>ニ</sup>男子なき時ハ亦長女を以て其位を嗣<sup>コウ</sup>り<sup>ニ</sup>免子女共<sup>ニ</sup>無<sup>ク</sup>き時ハ最近の親族より<sup>ニ</sup>之と嗣<sup>コウ</sup>く<sup>ニ</sup>むるなり新君ハ先主<sup>ノ</sup>薨<sup>セ</sup>せし時より直<sup>ニ</sup>主權<sup>ヲ</sup>握<sup>リ</sup>て即位<sup>ス</sup>此禮式<sup>ハ</sup>其後<sup>ニ</sup>行<sup>ハ</sup>る亦可<sup>ク</sup>ありや

一公會と分つ上下の兩院と形<sup>ハ</sup>上院ハ貴族を以<sup>テ</sup>其貧小<sup>ニ</sup>充<sup>ル</sup>るあり尤此貴族ハ國民<sup>ヲ</sup>撰<sup>ス</sup>舉<sup>グ</sup>預<sup>ル</sup>り<sup>ニ</sup>者<sup>ハ</sup>少<sup>ク</sup>なり<sup>ニ</sup>て但<sup>シ</sup>其爵位<sup>ハ</sup>因<sup>リ</sup>公會<sup>ニ</sup>列<sup>ス</sup>るあり又貴族<sup>ハ</sup>中<sup>ニ</sup>小數<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>の階級<sup>ハ</sup>

有り<sup>ニ</sup>一<sup>ニ</sup>等<sup>ト</sup>とチュルク<sup>ニ</sup>二<sup>ニ</sup>等<sup>ト</sup>とマルク<sup>ニ</sup>エッス<sup>ニ</sup>三<sup>ニ</sup>等<sup>ト</sup>とをエール<sup>ニ</sup>四<sup>ニ</sup>等<sup>ト</sup>とウイスカウ<sup>ニ</sup>ント<sup>ニ</sup>五<sup>ニ</sup>等<sup>ト</sup>とバロン<sup>ト</sup>と稱<sup>シ</sup>一<sup>ニ</sup>英倫<sup>ノ</sup>の貴族<sup>ハ</sup>總計<sup>ハ</sup>四百人<sup>ニ</sup>餘<sup>アリ</sup>る皆公會<sup>ノ</sup>上院<sup>ニ</sup>列<sup>ス</sup>る蘇格蘭<sup>ノ</sup>の貴族<sup>ハ</sup>十六人<sup>ニ</sup>アル蘭<sup>ノ</sup>此貴族<sup>ハ</sup>三十二人<sup>ニ</sup>之<sup>ハ</sup>少<sup>ク</sup>加<sup>ハ</sup>ら<sup>ズ</sup>なり

一<sup>ニ</sup>下院<sup>ハ</sup>其人數<sup>ハ</sup>六百五十八人<sup>ニ</sup>あり<sup>ニ</sup>其<sup>ノ</sup>人<sup>ハ</sup>貧<sup>シ</sup>ハ英倫<sup>ノ</sup>威爾士<sup>ノ</sup>蘇格蘭<sup>ノ</sup>阿爾蘭<sup>ノ</sup>等<sup>ノ</sup>の各郡<sup>ハ</sup>又<sup>ハ</sup>其他<sup>ノ</sup>の都會<sup>ヨリ</sup>定數<sup>ニ</sup>隨<sup>ヒ</sup>て拔擢<sup>ス</sup>る者<sup>ハ</sup>なり尤<sup>ニ</sup>之<sup>ハ</sup>を拔擢<sup>ス</sup>る<sup>ニ</sup>は<sup>ハ</sup>當<sup>テ</sup>て<sup>ハ</sup>各郡<sup>ノ</sup>各都<sup>ノ</sup>不定數<sup>ノ</sup>の人員<sup>ヲ</sup>來<sup>リ</sup>聚<sup>ル</sup>て各其推舉<sup>ヲ</sup>を乞<sup>フ</sup>る衆人<sup>ハ</sup>互

不評論と為し若し其用不堪へざるに或察に  
る時を更し其人を撰ひ用ゆるあり又推舉と  
乞ふ者多くし其負の定数に過る時ハ各其  
郡都に於て田地又ハ貨財と多く貯る者互に  
集會と為し撰舉と乞ふを此の名を入札と為  
し入札の数を得る者と最多き者と撰ひ定  
数不應して拔擢し之を公會に出はあり其  
定数各其郡都の大小又ハ人口の多少に準  
し一人よりし四五人に至るも此なり又大  
學校よりも數輩を拔擢して公會に列せしむ

るなり

一公會ハ周歲斷へず集會を為し小何らざる所  
り且國王ハ其意に隨ひ直に集會をあたし  
或る其期日と延ハさし免又ハ之を廢するの  
權有り然も若し之を廢する時を必新に  
復其撰舉と為さるると得ず又國王よりし  
之を廢するものとあし雖も撰舉の後七年に  
至れば必新に撰舉を為し  
一上院下院を論せし列座此中より一つは法律  
を創立せんとする者ハ其書面を出さんとす

免許

承諾

免言

承

る以前より先づ全院より乞ふ其許を受け其後  
 之と出れあり尤其時より當て々三度之と讀み  
 上けり細密に論議を為し其上よりて全院より列  
 行る者互ふ其座を分つ其書中に記する所  
 此者一定の法と為して新し舉行すへん哉否  
 と入札を為し若志是ありや行る者の数少耶  
 けぬバ其終ふあり置と取用せしむる也尤其数  
 多き時を全院此者皆承諾して之と他院より移  
 し復ひ其可否を議定せしめ他院より於ても承  
 諾する時々乃ち國王より呈し其調印を乞ふ

然る小若し國王の免許せざるに何る時ハ書  
 中不記の所のも此亦新法と為して舉行行る  
 事を得ざるあり去きとも近世より於る國  
 王の調印を許さるゝと極えて稀に一通  
 例ハ允許行るに多しやん叔國王兩院の許を  
 受け之と舉行行る時を其書中に記し所のも  
 此定法とあり全國の士民皆之を遵守せざる  
 と成得ざるあり

一此の如く國王と公會兩院より政權を分つて  
 ハ最好ある政体ふは是を則ち英國の安寧

強大とあり基なり

明和四年

# 官書發行所

## 書

江戸本町四丁目 上州屋摠 七

京都寺町通姉小路 錢屋惣四郎

同 四條河原町 山城屋勘助

大坂北久太郎町四丁目 河内屋新治郎

同 河内屋清 七

## 肆

法類氏

去類氏

去自氏